

ふくやま人権大学2024

ヒューマン・ライトって？



いいえ、ライツです。

要申込

参加無料

福山市では、人権文化が根付いた地域社会の実現に向けて、「人権」について学習し、さまざまな角度から啓発内容を創造することができる地域リーダーの養成を目的に「ふくやま人権大学」を実施しています。

テーマ リーフレット活用コース

人権学習をうまく進めるための

実践講座(全3回)

第1回 11月11日(月)

講義「無意識の思い込み・偏見とは」

講師 上村 崇さん

(福山平成大学 福祉健康学部教授)

第2回 11月25日(月)

グループでの話し合い

「リーフレットを活用した展開例の学習と作成」

第3回 12月2日(月)

グループ発表

「グループで作った展開例の発表」

場所 福山市まなびの館ローズコム 4階中会議室

時間 19時～20時30分(3回とも)



申込フォームはこちらから ↑

テーマ 表現コース

障がいのある人もない人も

「わたし」を表現してみよう(全3回)

第1回 12月8日(日) 13時～16時

「表現方法を学ぶ」

ワークショップ 演劇の手法を使ったコミュニケーションゲーム

第2回 2025年1月18日(土) 13時～17時

グループワーク 「わたし」を表現する方法を考える

第3回 2025年1月19日(日) 13時～17時

グループワークと発表 「わたし」を表現する



申込フォームはこちらから ↑

講師 舞台芸術制作室無色透明のみなさん
場所 福山市西部市民センター 5階大会議室

※手話や要約筆記が必要な場合は、事前にご相談ください。

申込方法 電話、ファクシミリまたは電子メールで「名前」、「ふりがな」、「連絡先」、「受講希望テーマ」をお知らせください。各テーマの申込フォームからも参加の申込みが可能です。

主催・問合せ・申込み先

福山市市民局まちづくり推進部 多様性社会推進課
TEL 084-928-1006 FAX 084-928-1229

電子メール tayouseisyakai-suishin@city.fukuyama.hiroshima.jp



ふくやま人権大学HP

人権学習をうまく進めるための実践講座

福山市が作成した人権啓発リーフレット(無意識の思い込み・偏見について考えてみませんか?)を教材にした学習のあり方や、進め方について学ぶことを通して、地域における人権学習の進行役となる人材を育成することを目的として実施します。

今、お互いを認め合う社会が進んでいます。

あなたの周囲ではどうでしょうか？

あなたにも思い当たることは、ありませんか？

- 「外科医」と聞くと、男性を想像する
- 家事・育児・介護は女性がしたほうがよい
- (日本に住む) 外国人はルールを守らない人が多い
- 特定の地域に対して「治安が悪い」というイメージを持っている
- 子どもが病気になった時は、母親が看病したほうがよい
- 組織の代表者は、男性がしたほうがよい
- 性別は、男女の2つしかない
- 祝い事の際には、仏滅の日を避ける
- 「潔癖」や「菌」からその人のことをイメージする
-
-
-

チェックをして気づいたことはありませんか？
自分自身の見方、価値観を見つめ、思い込みや偏見があるかもしれないと気づくことが大切です。



人権啓発リーフレット(無意識の思い込み・偏見について考えてみませんか?)

会場:まなびの館ローズコム 4階 中会議室

時間:19:00~20:30

参加費:無料

定員:30人(※先着順)

※手話や要約筆記が必要な場合は事前にご相談ください。

第1回

11月11日(月)

講義:無意識の思い込み・偏見とは

講師:上村 崇さん(福山平成大学 福祉健康学部教授)

第2回

11月25日(月)

ワークショップ

内容:リーフレットを活用した展開例の学習と作成

第3回

12月 2日(月)

ワークショップ

内容:グループで作った展開例の発表

主催・問合せ・申込先 福山市市民局まちづくり推進部多様性社会推進課

TEL:084-928-1006 FAX:084-928-1229

E-mail:tayouseisyakai-suishin@city.fukuyama.hiroshima.jp



申込は
こちら

【第1回 無意識の思い込み・偏見とは】

【講師】 上村 崇さん（福山平成大学 福祉健康学部教授）

目的

福山市が作成した2024年度人権リーフレット「無意識の思い込み・偏見について考えてみませんか？」を教材にした学習のあり方や進め方について学習する機会を提供することにより、地域における人権学習の進行役となる人材を育成することを目的とした講座。



3つの学習テーマ

- ①多様性と人権意識
- ②多様性を認めるために
- ③多様性を認め合い共に生きる社会

①多様性と人権意識

最初に人権に関するイメージや多様性と人権の関係性の個人の認識について、各自で確認した。

- ・ 人権は人間なら誰でも主張でき、全ての人間に人権は保障されているという側面と、現実には人間が長い年月をかけて勝ち取り、人権が認められた歴史としての2つの側面がある。
- ・ 正当な根拠に基づき、人間が幸せに生活する関係性において、公共の福祉、普遍的な理念と照合しながら人権は認められる。
- ・ 社会構造が変化の中で、人々が多様な価値観を持ちながら暮らせる環境づくりが課題である。

「多様性」とは好き勝手を容認する態度や無関心な態度ではない。自他のなかにある多様性にも目を向け、多様な人々が共生するために「人権」が必要となる。

②多様性を認めるために

自身の考え方の偏向について確認する作業を行った。

世界の見え方が個人によってそれぞれ異なること、その見え方や感じ方による差について、個人的な差別意識や差別行動、社会に存在する様々な制度の中、また社会で広く共有されているステレオタイプ、固定観念観念などの社会規範において差別が行われていることを理解した。

③多様性を認め合い共に生きる社会

私たちそれぞれが自分らしく生きるためには、社会の中で多様性が認められる必要がある。そのためにも人権を尊重し合う必要がある。それによって柔軟でしなやかなで活力ある社会になる。

◆参加者アンケートより(参加者20人 回答者 12人)

- ・ 先生の講義の内容がとてもわかりやすかった。今後も人権について考え、学び続けたいと思った。学ぶことの楽しさを改めて感じた。
- ・ グループワークや講師の話聞くことで自分の知識を深めることができた。
- ・ 人権大学を受講している人は、人権に関わってきている方々。それ以外の人に、“人権について”“人権侵害とは”を説くのはとても難しいと感じている。住民学習会も始まり、ちょうど「アンコンシャス・バイアス」をテーマに学習会を行うので、参加者の意見や感想を聞いてみたい。難しいテーマだから、嫌がられるからとさけて通らず、これからも学び続けていかないといけないと思った。
- ・ 自分の中に多様性がある。その声に耳を傾けることが大切ということが心に残った。
- ・ 自分の生き方を教えていただいた。自分は弱いものだと思え、自分の中の色々な声を聞きながら生きていく。
- ・ 同一性を求めるがゆえに人権侵害が起きることが理解できた。人権意識をベースに多様性を認めていくことの大切さを感じた。グループワークもいろいろな意見が聞けて興味深かった。
- ・ 自分の回りの者から「思い込み、決めつけが多い、強い、それで大人の義務を果たしているつもりなの？」と言われることが多く、講義を受けて少し変化が出てきそう。
- ・ 好き嫌いで多様な人々を差別しているのではないと思う。
- ・ 人権講座を聞いて、久しぶりに学んでみようかと思った。近々、まちづくり座談会もあるし、真剣に学んでみようと思った。

◆住んでいる地域で学習を深めたい人権問題について

- ・ 学区の住民学習会では毎年様々なテーマを決めて行っているのので、すべての人権問題について少しずつ学習したい。
- ・ 部落差別
- ・ 外国人市民とのまちづくり
- ・ アンコンシャス・バイアス、マイクロアグレッション
- ・ 外国人技能実習生とどのように共存していくか



【第2回 リーフレットを活用した展開例の学習と作成】

内容

第2回は、グループでリーフレットを使い「わたしの場合の学習のすすめ方を考える」を学びの目標として話し合いを進めた。

◆ワークショップ「話し合いについて」の約束

- お互いを尊重しよう
- 聞くだけでもOK
- 聞いた話は置いて帰る(個人情報口外しない)
- ◎それぞれが1つでも気づき、学ぶことが大切



①リーフレットの内容について理解を深める

今年度の人権リーフレットのテーマである「アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み・偏見)」について、グループでリーフレットの読み合わせを行いながら、内容やイラストの一つひとつについて意見や疑問点などを交流した。

その中で、参加者からは、「イラストの中には、気づいていない部分があった」「自身の思い込みが発見できる進め方を考えたい」などの意見があった。

②「私の場合の学習の進め方」を考える

次に、「私の場合の学習の進め方」についてグループで意見を出し合った。

その中で、参加者が心地よく学び合う基本的な考え方(ワークショップ「話し合いについて」の約束)や対象者や会場の状況に合わせた時間配分、学習の流れなどを、事例をもとに確認した。

学習内容については、自分自身が進行する場合に取り上げてみたい項目を交流し「どのような切り口でリーフレットを扱うか」などについて話し合った。また、学びを深める話題の事例や実際に副教材に使われた動画などを視聴し、他自治体や報道機関などが作成した資料なども参考にしながら、各グループで意見を出し合った。

参加者からは、「まず、興味を持ってもらうことが理解を深めることにつながる」「身近にある無意識の思い込みについて考え合いたい」などの意見があった。



③学習を振り返る

最後に行った振り返りの中で、「多様性とは、かけがえのない個々を認め合う集団であり、その根底には人権尊重が必要である」という「多様性と人権」についての関係性を改めて確認し合った。

受講者からは「話し合いをどう進めていくかについて、色々な意見を聞くことができた」などの感想があった。

◆参加者アンケートより

- ・今日の講座を受講して、リーフレットの活用(説明)ができていないことを感じた。イラストの中には気づいていない部分があり、あらためて発見することがあり勉強になった。
- ・ワークショップ形式で他の方の意見を聞くことができて勉強になった。
- ・話し合いをどう進めていくか、少しとまどいもあったが色々な意見を聞くことができ、勉強になった。
- ・リーフレットの読み込みを時間かけてやる。それに気づき、気づかされた。
- ・人権啓発する立場の人間として、リーフレットを活用する学習会で司会などをするためにはまだまだ勉強不足だと痛感した。様々な方と話すことはとても自分のためになると思った。自分の頭の中をアップデートしつづけていこうと改めて感じた。

2024年12月2日(月)

リーフレット活用コース

人権学習をうまく進めるための実践講座」

【第3回 グループで作った展開例の発表】

内容

第3回は引き続き、リーフレットを使った学習のすすめ方「わたしの場合のすすめ方」を完成させることを目標にグループワークを行った。



◆ワークショップ(話し合い)のヒント

アンコンシャス・バイアスは思考プロセスのひとつ

- ・ 生育環境や経験、報道や周囲からの情報によって「カタチ」作られている
- ・ 行動判断の基になっている。

学習のすすめ方のポイント

- ・ リーフレットの説明を補完する。
- ・ 副教材を使用するのもアリ。
- ・ 付け足したい説明は？



①グループでの話し合い

前回話し合った内容を基に、各グループで学習展開例を作成した。話し合いの中では、「アンコンシャス・バイアスによってどういう悪いことが起こるのか、説明するのが難しい」「副教材があると内容がわかりやすい」などの意見があった。

②グループ発表(共有)

発表では、学習会の参加者にどうすればより理解してもらえるかを考えた内容の展開例が共有された。具体的なものとしては「相手の立場だったらどう思うか」「自分自身が嫌だなと思ったこと」などを参加者どうしで意見交流するというものがあった。

※詳しくは別紙【人権大学「リーフレット活用ゼミ」で考えた進め方(展開例)】

③まとめ

◎展開例の交流をきっかけに身の回りに起こっているアンコンシャス・バイアスの事例を出し合い、使っている表現や日常のコミュニケーションにおいてよくある話題にもアンコンシャス・バイアスが潜んでいることを理解することができた。

(例:血液型と性格の一致・不一致、街のイメージとパーソナリティの一致・不一致など)

◎アンコンシャス・バイアス自体が悪いことではない。それによって相手を傷つけたり嫌な思いをさせたりしないことが重要である。

◎気づきから行動へ。学びを積み重ねていくことが重要。福山市では引き続きアンコンシャス・バイアスに関する取組を進めていくので、今回の講座で学んだことを様々な場面でできればファシリテーターとして活かしてもらいたい。

◆参加者アンケートより

- ・ 参加した方々からいろいろな立ち位置のエピソードを聞き、大変勉強になった。学び続けることの大切さ、まちがった時にきちんと謝れることも大事だとあらためて思った。楽しい3回だった。ありがとうございました。
- ・ いろいろな意見を聞かせてもらって学ぶことができた。こういうことを積み重ねていくことが大切だと感じた。

リーフレット「無意識の思い込み・偏見について考えてみませんか？」

人権大学「リーフレット活用ゼミ」で考えた進め方(展開例)

班のリーダーを中心に、5～6人のグループでの話し合い学習を想定

		問いかけや説明	参加者の活動
1P	題字について	アンコンシャス・バイアスの説明を加える。	
	表紙の絵について	花は、いろいろな光を表し、光の三原色を集めると透明になる。中心の人は、何色にも染まっていない。自分の色は自分で決められる。多数の意見や周りに左右されるのではなく、自分で考え、一人ひとりが尊重され認め合う社会について考えてみましょう。	
	「血液型、出身地…」を 読んで確認	文章を読んで学習内容を確認	
	動画(副教材)を見る。	AC ジャパン「聞こえてきた声は…」を視聴。どんな人を想像しましたか？	各自、想像しながら見る。
	文章(副教材)を読む。	* 思い込みがあると質問の答えがわからなくなる例文を使う 例「外科医と男の子の関係は…」	自分はどう思ったか、正解を聞いてどう思ったかを意見交流する。
2P	あなたにも思いあたることは、ありますか？	「そうだ」と思うことにチェックをしましょう。	各自、□にチェックを入れる。
	チェックが多くついた項目について意見交流を行う。	自分が相手の立場だったらどう思うか考えてみましょう。 (3例ほど…時間による)	例)自分が外国人で「ルールを守らない」と言われたらどう思うか。
	「どこがいけないのかわからない」などの意見に対して。	もやもやジェンダー川柳(副教材)などを使って、その立場の人の思いになってみましょう。(他の資料も活用する)	発言者の疑問を訂正するのではなく、自分の思いなどを交流する。
	自分が思ったことを空欄に入れる。	書いてある項目以外に、自分自身が「嫌だな」と思ったことを空欄に書き加えましょう。(3例まで)	書いたことを交流する。
3P	一つひとつの絵について	例)ランドセルの子どもたちの絵から… (絵の解説資料を参考にしながら、質問に答える)	自由に意見を交流する。
4P	「アンコンシャス・バイアスとは」「代表的な種類と…」を読んで確認	みんなで読んでみましょう。 いろいろなバイアスについて、質問がありますか。(書かれている具体例以外にも、身近にある具体例を考えておく)	順番に読んでいく。 書かれている具体例や自分に置き換えて考えてみる。
	「気づきから行動へ」 を読んで確認	文章を読みます。 今日の学習で知ったことや何か自分にもできそうなことを考えてください。	一つでも「わかった」を持って帰ってもらう。

表現 ワークショップ



ふく

障がいのある人もない人も
「わたし」を表現してみよう!

参加者募集

やま
人権
大学
2024

日程

12.8 (日)

13:00-16:00
表現方法を学ぶ

1.18 (土)

13:00-17:00
わたしを表現
する方法を考える

1.19 (日)

13:00-17:00
「わたし」を表現する
(グループ発表)



定員

20人
※先着順

会場

福山市西部市民センター
5階 大会議室

障がいのある人もない人も、お互いの個性を持ち寄り合い、
自分らしく一緒に表現してみませんか



ふくやま

人権大学って？

人権文化が根づいた地域社会の実現に向けて、「人権」について体系的に広く学習することによって、さまざまな角度から啓発内容を創造することのできる地域リーダーを養成する講座です。

プログラム

障がいのあるなしに関わらず表現活動をとおして時間を共有し、自分とは異なる個性・価値観に触れるきっかけとなるような出会いの場をつくります。

12/8
(日)

13:00~16:00 表現方法を学ぶ

■事例紹介、演劇の手法を用いたコミュニケーションゲーム

1/18
(土)

13:00~17:00 「わたし」を表現する方法を考える

■グループワーク

…グループに分かれ、自分の思い出、印象に残っているもの等を持ち寄り合い、障がいのある人もない人も一緒に自分を表現する方法を考える。

1/19
(日)

13:00~17:00 「わたし」を表現する

■グループワーク…発表に向けて練習する。

■発表…各グループで考えた表現を、グループごとに発表し合う。
(各グループ10分~15分)

■振り返り…ワークショップ全体をとおしての感想等を共有する。

講師

一般社団法人 舞台芸術制作室無色透明



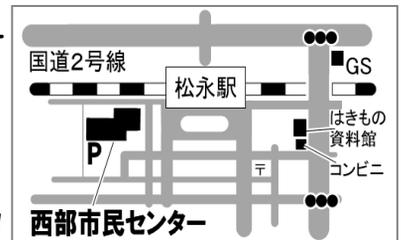
2010年(平成22年)、パフォーミングアートの企画制作を専門に行う団体として旗揚げ。社会の中の「こんなふうになったらいいな!」を「演劇のちから」を活かして実現していくことをめざしている。近年では人形劇の創作を通じた子育て支援事業や、高齢者を対象にした演劇ワークショップの開催など、演劇を通じて自分と違う他者を認め、他者と関係を築いていく体験を社会に広げる活動を継続中。2016年度(平成28年度)より、認定NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽんと協働して、障がいのある人もない人も共につくる演劇事業「おきらく劇場ピロシマ」に取り組んでいる。

対象

- ・全日程参加できる人
- ・福山市内に
在住・在勤・在学する人

会場

福山市西部市民センター
5階大会議室



参加費

無料

住所

福山市松永町三丁目1-29

主催・問合せ・申込み先

福山市市民局まちづくり推進部 多様性社会推進課

電話、FAX、電子メールまたは申込フォームで、お申込みできます。

TEL: 084-928-1006 FAX: 084-928-1229

Mail: tayouseisyakai-suishin@city.fukuyama.hiroshima.jp

メールまたはFAXでお申込みの場合は、次の内容を記載してください。

- ①お名前
- ②ご連絡先(メールアドレスまたは電話番号)
- ③年齢
- ④障がいの有無・種別
- ⑤そのほか配慮事項(事前にスタッフに伝えておきたいことや、不安なことがあればお知らせください。)



申込フォーム





写真1 参加全員で「パッパラパー」を表現した様子

(一社) 無色透明の活動内容

----ACTIVITIES INTRODUCTION

(一社) 舞台芸術制作室無色透明は、2010年パフォーミングアートの企画制作を専門に行う制作機関として旗揚げされ、地元の劇団の制作統括や、NPO 法人子どもコミュニケーションネットワークひろしまの会員活動をはじめ、様々な角度からアートに携わる活動を行っている。

2010年に広島 NPO 活動奨励賞を受賞、2016年に広島のNPO ひゅーるぼんから委託を受け、障がいをもった方たちとの演劇づくりの事業に取り組み、2019年から文化庁から障がい者による文化芸術活動推進事業を実施するなど、多方面に活躍している。

ふくやま人権大学では、その活動内容が詳しく紹介され、演劇ワークショップ(小学生が笑顔でお互いの耳を触り合っている様子や、「生きる」という漢字を体で表現している様子)の写真や、「ウタとナンタの人助け」という芝居を上演した際の動画が紹介された。参加者は興味深く聞き入っていた。



写真2 参加者に活動を説明する(一社)無色透明・山田 めいさん

ふくやま人権大学

表現コース第1回

----- MAIN STORY

講座は①講師紹介、②ウォーミングアップ③グループワーク、④穴あき台本劇の4つで構成された。

- ① 講師の紹介については、右記に記載。
- ② ウォーミングアップについて、緊張をほぐすため、まず参加者全員で円になりグーパーと手を軽く動かした。その後、各人が自由に歩く、3人組になり「おはよう」と声を掛ける、再び円になり自己紹介(ニックネームと好きな食べ物)をした。このことにより、参加者のお互いを知ることができ、少しうちとけることができた。
- ③ グループワークでは、まず詩「わたし」を朗読し、次につま先、ひじ、指先を参加者同士で合わせるワークを行った。そして、「うねうね」「わくわく」などのオノマトペ表現を、カードを見て一人が表現し、他の参加者が何

を表現しているかを当てるゲームを行った。(写真1参照)

- ④ 第1回の最後に実施されたのが、4グループに分かれた即興劇だ。劇は、一部セリフ部分が空欄(何を言ってもよい)となっている「穴あき台本」となっており、A~Eの配役が設定されていた。配役は次のとおり。A、B-オノマトペカードに従い、オノマトペに合った表現を演じる。C、D-セリフカードに従い、セリフに合った表現を行う。E-空欄部分のセリフを自由に設定し、話にオチをつける。

5人1組の4グループはそれぞれ思い思いの物語を作り演じた。それぞれ、個性豊かな発表がなされ、参加者がお互いをさらに詳しく知る機会となった。

参加者の感想

----- PARTICIPANT FEEDBACK



写真3 グループワーク

参加者アンケートでは、参加前は「コミュニケーションが取れるか不安」「自分は見えないので難しい動きが理解できないかも」「最初は行きたくなかった」などの不安が挙げられていた。

参加後は、「とても楽しかった」「初めての方たちといろんなお話ができた」「たくさんの笑顔が見れた」「普段関わることのない人たちとにぎやか過ごせて楽しかった」「いろんな背景の方と関わることで、よかった」「動きが入り、周りの様子が少しずつ分かってくるとほぐれてきた」「脳が活性化された」「有意義な時間を過ごせた」などの感想が聞かれた。特に、④穴あき台本劇については評価が高く、参加者の多くが「楽しかった」と回答していた。

第2回、3回を期待する声も多くあり、「また、参加したいです」「来年(第2回、3回)も楽しみにしています」との声が寄せられた。第1回はよいスタートとなった。



写真4 穴あき台本劇

表現コース第2回

----- MAIN STORY

講座は①ウォーミングアップ、②「わたし」を振り返るグループワーク、③発表の3つで構成された。

- ① 緊張をほぐすため、ウォーミングアップからはじまる。はじめに、参加者同士の手の温度を確かめ合って、「一番温かい人」と「一番冷たい人」を決めた。また「トントン」「ゆらゆら」といったオノマトペを体で表現したり、2人組になってひとりが誘導しもう一人が目を閉じて歩いたり等して体を動かした。次に参加者全員で円になり、自分についての情報（好きな食べ物、自分の好きなところ）を一人ひとり参加者に伝え、お互いを知ることができた。（写真1参照）
- ② 3つのグループにわかれ、「あのね、わたしねシート」（1：思い出の食べ物 2：好きな歌 3：好きな場所）を記入した。次にグループ内で共有し、1～3について「どうして？」「どんな風景だった？」等エピソードをどんどん深掘りし、お互いについてイメージを膨らませた。（写真2参照）

- ③ 第2回の最後には、グループワークで記入した「あのね、わたしねシート」の内容を参加者全員の前で発表した。発表方法は、自分のことを他の人に紹介してもらって他己紹介形式であったため、お互いに自分の事を相手に知ってもらおうと説明し、相手のことを知ろうとしながら、発表準備を進めた。3グループそれぞれに発表し、一つの作品を作りあげたことや他者へ伝えたことの達成感を味わう。また、他のグループの発表を見て他者を知り、感想を言い合った。同じものを見ていても、人によっていろいろな視点があることを知る。（写真3、4参照）

発表の後、ウォーミングアップで確かめ合った手の温度を再度確かめ合った。「最初はあの人が一番温かったけど、この人になってる」と、何気ない変化を参加者同士で共有し、お互いのことを知る、そして認める合う、ということが講座全体にちりばめられていた。（写真5参照）



写真1 ウォーミングアップ



写真2 グループワーク



写真3 発表1



写真4 発表2



写真5 お互いの手の温度を確かめ合う

2025年1月19日（日）

表現コース第3回

----- MAIN STORY

講座は①ウォーミングアップ、②チーム発表に向けての練習、③発表の3つで構成された。

- ① 第1回、第2回同様、緊張をほぐすため、ウォーミングアップからはじまる。はじめは1人で、次に2人で、そして輪になってみんなとゆるやかに進むうちに、体も心も自然と打ち解けてつながりを感じることができた。毎回、新たな発見がある。
- ② 「あのね わたしね」のチーム発表に向けて、表現のおさらいや講師たちによる、「あのね、わたしね」のデモンストレーションを観て、イメージを膨らませた。その後、チームに分かれて、どうやってそれぞれの「わたし」を表現するかを話し合いながら、発表に向けての練習を行った。

③

「あのね わたしね」
◆思い出の食べ物
◆好きな歌
◆好きな場所

一人ひとりがこの中の一つのエピソードを選び、それぞれの「わたし」を3つのチームごとに創作した。

子どもの頃の思い出の食べ物…
勇気をもった歌、青春時代の歌…
安らぎの場所や思い出の場所…

それぞれの思いが込められたエピソードを効果的に伝えるため、動きや声の強弱、配列などを工夫して発表した。障がいの有無の垣根をこえて、ワーク等を通じて、いつの間にか参加者同士が打ち解け、互いに知り合うことができた。一つ事をやり遂げた達成感を感じることができた発表となった。



ウォーミングアップはいつも笑いが



創作発表に向けて表現方法のおさらい

3・2・1・アクション!



発表 チームA



チームB



チームC